

保護者のみなさまへ

コレだけは  
知っておきたい!  
教育NEWS

イマ  
どき

(未来志向の学力を)

こんな問題、どう解答しますか?

【問題】もし、地球が東から西に自転したとしたら、世界は現状とどのように異なっていたと考えられるか、いくつかの視点から考察せよ。

(2014年度、東京大学理科I類 外国学校卒業生特別選考 小論文問題より)



「クリティカル・シンキング」[仮説思考]「クリエイティブ・シンキング」が求められる問題。「単元テストが済んだら終わり」という学び方では対処できない。アタマの中の理科や社会などの「知識」と、カラダの中の「経験」をベースに考える。「思いつき」「ひらめき」も重要。

# 未来からの留学生を迎えるにあたって ～これから求められる教育とは～

「子どもはみんな未来からの留学生」と語る石川一郎さん。AIが進化し、デジタル化・グローバル化が加速する今「求められる教育」とは? 「保護者が果たすべき役割」とは? 長年、中高大で教壇に立ち、校長や学院長を歴任してきた石川さんに、わかりやすくお話をいただきました。

## 先行きが見えない今、未知の状況に対応できるか?

2020年は、教育改革元年ともいえる年でした。教育の現状をふり返ってみましょう。

1. 小学校で新学習指導要領スタート
  - ・外国語教育の拡充(小3・小4は外国語活動、小5・小6は教科に)
  - ・プログラミング教育導入
2. 大学入試が大きく変わる
  - ・センター試験が「大学入学共通テスト」に
  - ・AO入試が学力重視の「総合型選抜」に
3. 「GIGAスクール構想」の推進
  - ・パソコンやタブレットを一人一台に

新学習指導要領の大きなテーマは、社会の変化に対応した教育にするために、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」を育成することにあります。まさに今、コロナ禍という未知の状況の中で、子どもにも大人にも「思考力・判断力・表現力」を駆使した対応が迫られたといえるのではないのでしょうか。


この新学習指導要領のスピリットを反映したような問題は、既に5〜6年前から入試で出題されています。たとえば、次の問題です。

【問題】(1枚のカラー写真が示され)キングスクロス駅の写真です。あなたの感じるところを800字以内で述べなさい。(2015年度 順天堂大学医学部2次試験 小論文問題より)

写真だけで、文章も資料もありません。いきなりこんな問題が出たら「えっ? 何を書けばいい

お話しくださったのは……

石川一郎さん



聖ドミニコ学園カリキュラムマネージャー。21世紀型教育機構理事。1962年東京都生まれ。早稲田大学教育学部社会学科地理歴史専修卒業。30年にわたり中高の現場で教鞭をとり、かえつ有明中・高等学校校長、香里ヌヴェール学院学院長を務めたあと、現職。著書に『2020年の大学入試問題』(講談社現代新書)、『学校の大問題 これからの教育リスク』を考える』(SB新書)など。

### 未知の課題に対する「思考のプロセス」

- 1 違和感・直感 初見の「なに、これ?」という「違和感」や「直感」を振り出しに考える。「違和感」や「直感」は探求の原動力。これを大切にしなければ学力は伸びない。
- 2 観察 細部までこまかくみる。理科の「観察」だけでなく、国語の文章読解、算数や数学の文章題も、こまかく読み込むという意味での「観察」。非常に大切な能力。
- 3 全体構想 「違和感」を起点として、「観察」で発見したことを材料に、物語(ストーリー)をつくる。全体を俯瞰して考える「鳥の目」と、細部を見て考える「アリの目」の両方が必要。「木を見て森を見る」思考。
- 4 表現 物語を言語化する。言葉だけでなく、図、絵、音楽、数式も表現。最適な方法で表現する。
- 5 共有 4の物語を伝えたとき、相手がどう反応するか。一方通行ではないコミュニケーション。

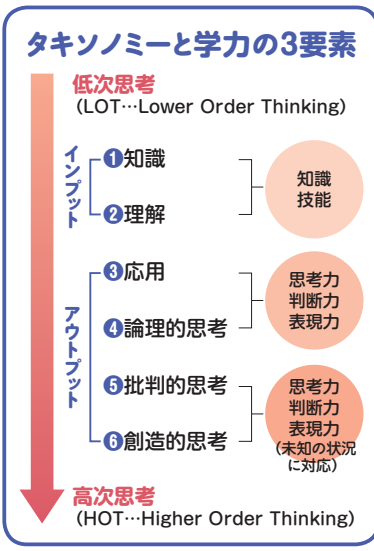
実は、この問題が求めているのは、初めて(未知)の患者を前にしたとき、医師として、その患者がどういう状態なのかを見極める(全体の物語をとらえる)力です。突如、目の前に現れた未知の状況に対して「どう考え、どう判断し、どう表現するか」を受験生に問うているのです。この問題は、次の①〜⑤の「思考プロセス」で考えてみるとよいでしょう。正解がひとつではない記述式問題や小論文など、未知の課題に直面したときの「思考プロセス」です。

## 思考力を高めるのは わが家のカレールイス？！

「学習指導要領が変わった、入試が変わった。思考力・判断力・表現力が重要なのはわかった。でも、どうやって測るの？ どうやって身につければいいの？」と疑問がわきますよね。

「思考力・判断力・表現力」を測る指標として、首都圏中学模試センターは『思考コード』を開発しました。これによって問題が求める学力のレベルを9つの指標に分類することが可能になりました（コレイマバックナンバーを参照）。

これに先立つものとして、約70年前にアメリカの教育学者、ブルームが作ったブルーム・タキソノミーがあります。これに学力の3要素を加えてみました。次の図を見てください。



これまでの日本の教育は①②③を重視してきました。しかし欧米では④⑤⑥の育成を目指し、特に⑥のクリエイティブ・シンキングを重視。今後、日本の教育もこの傾向が強まるでしょう。

「低次思考」とは、正解がある問題に正しく答える、正確に物事を再現し処理する、データを集めるといった思考で、「記憶」「理解」「適用」にあたります。A1が得意な分野です。

しかし、収集したデータを「分析」「評価」し、新しいことをどう「創造」するかは、人間にしかでき

ない「高次思考」です。物事を俯瞰して全体像をつかむといった思考は、A1にはできないのです。たとえば、「わが家のカレールイス」を考えてみてください。材料も作り方も、ルーの箱のレシピどおりだったら「低次思考」です。

でも、カレールイスを作る目的は、家族が幸せになるためですよね。だからこそ材料も作り方も隠し味も家族好みに工夫します。これが「高次思考」。基本の材料や作り方（知識・技能）を踏まえつつ、

出来上がり（全体像・創造物）をイメージしながら、アレンジ（編集）する。「わが家のカレールイス」からでいいので「高次思考」を意識してみてください。



## 考える子どもを育てるために 保護者へのアドバイス

### ●わが子に最適な学習環境を選ぶ

塾や学校など、わが子に合った学習環境を選ぶのは保護者の責任です。そして、子どもが「自分で学ぶ」方向にもっていく。一方的に「勉強しなさい！」と言っただけの「やれやれ」や「やらされる」の関係は長続きせず、子どもは「できる／できない」にしか興味を持たなくなるんですね。

新しいことを学びたい、もっと深く調べたい、といった「学問」への意識を、保護者が持つておくことが大切ではないかと思えます。

### ●5W1Hの「問い」で広げる

When（いつ？） Where（どこ？） Who（だれ？） What（なに？） Why（なぜ？） How（どうやって？）の質問で、子どもの学びを広げてください。最強の質問は「Why」と「How」です。「なぜそう思ったの？」「どうやって作ったの？」と問いかけてください。ダメじゃ

## 教えて、 石川先生！

### ～保護者からの質問にお答えします～

- Q. 小学校低学年の子どもに「思考力・判断力・表現力」を身につけるには？  
A. 小学校低学年のうちは「思考力・表現力」重視でいいと思います。もっとも難しいのが「判断力」。「どれがいいと思う？」と質問ばかりしていると、村度や思いつきで答えるようになってしまいます。間違いを修正したり、無理に判断を求めたりしないことが大切です。
- Q. 英語やフランス語を学ぶ意義は？  
A. 外国語を学ぶ意義は、その言語を使う人々の文化や概念をも学ぶこと。たとえばフランス人は、「Non」と否定したところから話を始めます。「多様性」「多文化共生」の視点で、自分が知らなかったことを知るチャンネルとしての外国語なんですね。ただ話せるだけでなく、議論できる、コミュニケーションできるレベルまで目指してほしいと思います。
- Q. 今、求められる保護者の役割は？  
A. 保護者の役割は、子どもを愛すること、最後の防波堤となること。そして、子どもに「あなたはあなたでいい」という「自己肯定感」を持たせ、高めていくことだと思います。

「逆算型」から「拡張型」へ  
「あなたの夢の実現に向けて勉強しなさい」という「逆算型」は、今は難しいと思います。それよりも、発想・思いつき・違和感を「問い」で広げていく、気になること・熱中していることから引き出していく、といった「拡張型」の働きかけが、これからの教育では重要です。

とはいえ、親子だと限界もありますから、塾や学校など、他人の手を借りたほうがいいと思えます。保護者は安全・安心の基地として、子どもとの「対話」に重きをおくといいですね。

●安心して「試行錯誤」ができるように  
算数や数学で、答えを求めて一直線ではなく、迷いに迷ってトライ＆エラーをくり返すことが大切。子どもはみんな「できるようにになりたい」というマインドを持っています。ですから、安心して「試行錯誤」ができるように。音楽、美術、体育などの創作や表現も役に立ちます。入り口はどこからでもいい。保護者のみなさんにはそういう大らかさを持っていただきたいと思えます。



【編集後記】  
NEA（教育アライアンスネットワーク）が主催した保護者向け「教育セミナー」より、石川一郎さんのお話をダイジェストでご紹介しました。世の中が大きく変わろうとしている今、日本の未来を拓く子どもたちを育てるために、何を考え、何をしていくべきかを、NEAは、保護者のみなさんと一緒に考えていきます。